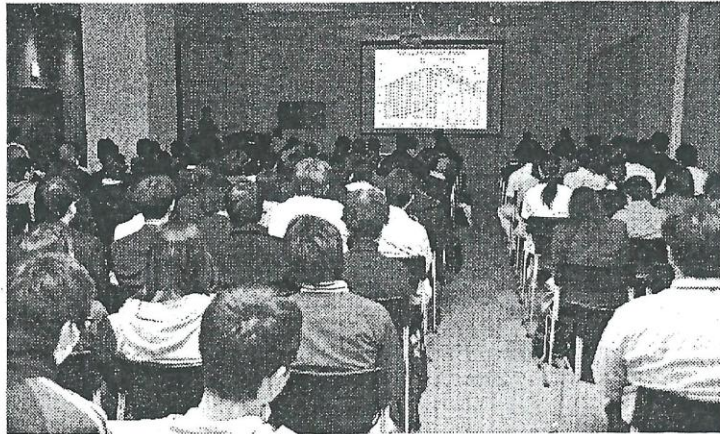


全国の取り組み学ぶ

医療・介護連携、200人が研修



効果的な地域包括システムの
実現に向けた医療・介護連携
について、情報を共有した研
修会

西胆振地域リハビリテーション推進会議

「西胆振地域リハビリ
テーション推進会議」(会
長・稲川昭室蘭市医師会
会長)の合同研修会が室
蘭市知利別町の製鉄記念
室蘭病院がん診療センタ

ーで開催、西胆振管内
の医療・介護・福祉関係
者ら約200人が、全国
の取り組みや実例を通じ
て、効果的な地域包括シ
ステム実現に向けた医療

・介護連携に理解を深め
た。

まず、厚生労働省医療
・介護連携技術推進官の
秋野憲一氏が、「60%以
上が自宅で療養したいと
希望しているが、自宅で
最期まで療養するには、
家族の負担や急変した時
の対応に不安を感じてい
る」とする調査結果を説
明した。

また、広報誌で「人生
の終幕」をテーマに、「医
療と介護を受けながら、
住み慣れた家で暮らす
『在宅医療』も一つの選
択肢」などと特集した神
奈川県横須賀市の例を解
説。

同市では、市民便利帳
に在宅医療に対応する医
療機関の掲載や、在宅療
養ガイドブックの配布な
どの普及啓発にも取り組
んだ結果、「病院80%、
在宅12%」だった看取り
が「病院65%、在宅20%」
への変化につながったこ

とも紹介した。

このほか、「在宅医療
に対する負担を軽減する
バックアップシステム」
を構築する千葉県柏市
や、「在宅医療・介護連
携支援センター」(つらつ
しー)を開設する沖縄
県浦添市、多職種連携研
修会「医歯薬同行訪問研
修」を行う岩手県釜石市
の例も解説した。

みながわ往診クリニッ
ク(登別)の皆川夏樹院
長(室蘭登別食介護研究
会代表)は、「病院と在
宅をつなぐもの」をテ
マに話した。「患者本人
は、帰りたい時は『帰り
たい』と訴えて」「病院
は、自宅に帰すという信
念を持って道を探って」
「施設は、軽度の要医療
処置者のショートステイ
・入所の勉強を」「家族
は、一緒に生活する喜び
を思い出して」などと指
摘。参加者も真剣に耳を
傾けていた。(松岡秀直)